

上尾市学校施設更新計画基本計画見直しに係る 市民ワークショップ報告書（概要）

目次

1. 概要	1
1) 目的	1
2) 開催日程・参加人数	1
3) 開催プログラム	1
4) 意見交換において設定したテーマ	1
2. 意見分析結果	2
1) 全体をとおしての主な意見項目集計	2
2) 意見の概要	3
(1) 問いかけ①「骨子案の内容について」	3
(2) 問いかけ②「新しい時代の学びに相応しい学校づくり」に必要なこと	8

1. 概要

1) 目的

- ・上尾市学校施設更新計画基本計画（骨子案）の「コンセプトや方向性」、「新しい時代の学びにふさわしい学校づくり」について、市民が重視する項目や分かりづらい項目などを把握し、今後の素案作成のための参考とする。
- ・市民ワークショップの参加者から、新しい学校づくりに求めるニーズを把握する。
- ・市民ワークショップを通じて、立場や背景が異なる参加者同士が、それぞれ多様な意見に触れることにより、相互理解や共通認識の形成が促進される。

2) 開催日程・参加人数

開催日・場所	参加人数		
	①午前の部	②午後の部	計
10/2（日） 大谷公民館	8人	3人	11人
10/10（月・祝） 上尾公民館	16人	7人	23人
10/15（土） 大石公民館	14人	8人	22人
10/16（日） 上平公民館	7人	6人	13人
10/22（土） 平方公民館	15人	11人	26人
10/23（日） 原市公民館	14人	10人	24人
		合計	119人

3) 開催プログラム

- ①「上尾市学校施設更新計画基本計画（骨子案）」の概要説明（約35分）
- ②意見交換（約80分）
- ③全体発表（約25分）

4) 意見交換において設定したテーマ

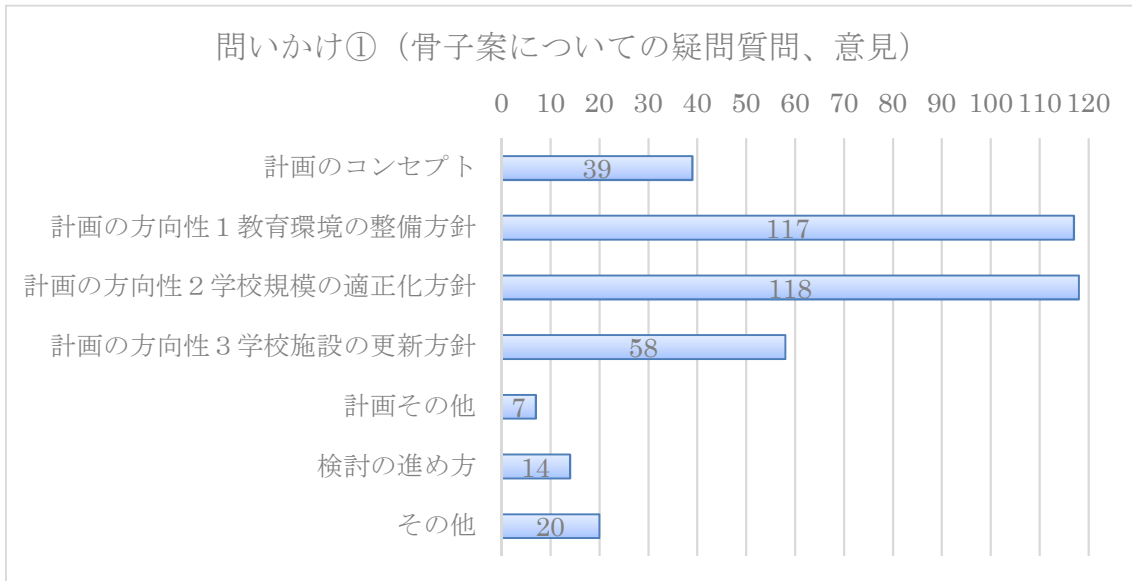
- ・問いかけ① : 上尾市学校施設更新計画基本計画（骨子案）の説明を聞いて、もう一度やもう少し詳細に知りたいことなど。骨子案の内容について感じたことをお聞かせ下さい。
- ・問いかけ② : 「新しい時代の学びにふさわしい学校づくり」に必要なことは何ですか。

2. 意見分析結果

1) 全体をとおしての主な意見項目集計

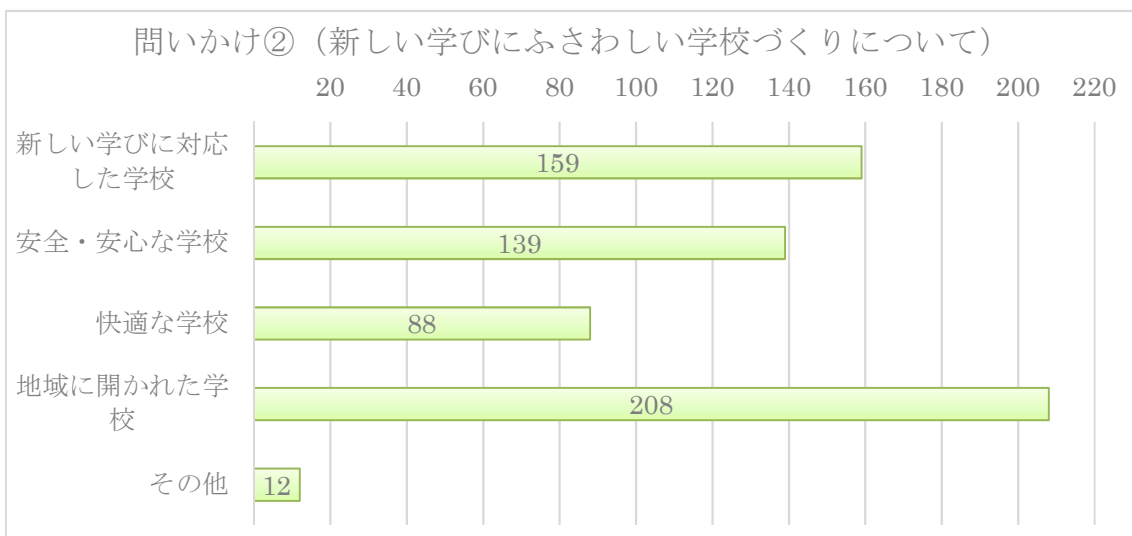
(1) 問いかけ①（骨子案についての意見）

「学校規模の適正化方針」の意見が最も多く、次いで「教育環境の整備方針」、「学校施設の更新方針」、「計画のコンセプト」の順に意見が多かった。



(2) 問いかけ②（新しい時代にふさわしい学校づくりについての意見）

ワークショップでは、主に 4 つの視点で意見が出されたが、「地域に開かれた学校」の意見が最も多く、次いで「新しい学びに対応した学校」、「安心・安全な学校」、「快適な学校」の順に意見が多かった。

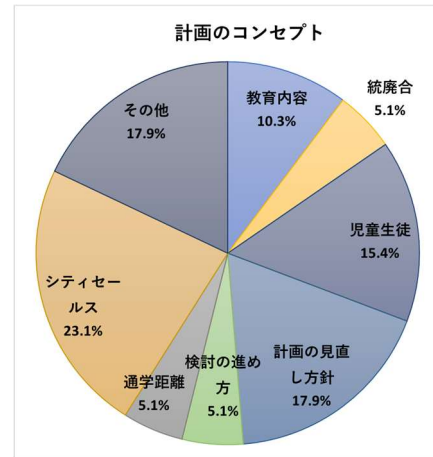


2) 意見の概要

(1) 問いかけ①「骨子案の内容について」

①計画のコンセプト

計画のコンセプトについて出された意見を見ると、「シティセールス」が最も多く、次いで「計画の見直し方針」、「児童生徒」の順となっている。



ア. シティセールス

●人口増加・地域振興の取り組み

計画策定の背景の一つに少子化があることから、上尾市全体や子供の人口が減少している地区やエリアの魅力を向上させ、転入人口増等により子供の人口を増やすことが必要である。

教育分野での魅力向上策として、「中高一貫校」の設立が有効ではないか。

●地域事情の反映

伝統的に学級数が少ない学校の存在や、学校の立地についての地域の拠点性など、市内を一律に考えるのではなく、各地区の特性に配慮した検討が必要だ。

イ. 計画の見直し方針

ゼロベースでの見直しとの説明を受けたが懸念がある。

施設優先で計画を策定するとあるが、教育内容を優先してほしい。

学校の統廃合と GIGA スクール構想は別の話なので、同じ土俵で議論を行っていることに懸念がある。

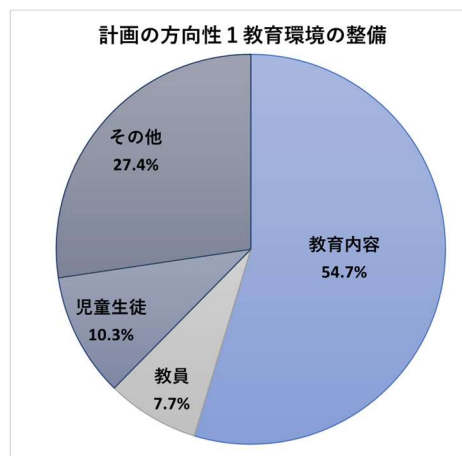
ウ. 児童生徒

(不登校対策)

不登校対策が計画の中に入っていない。計画の中に盛り込んでほしい。

②計画の方向性1「教育環境の整備方針」

計画の方向性1「教育環境の整備方針」について出された意見を見ると、「教育内容」が最も多く、次いで「児童生徒」「教員」の順となっている。「その他」についても意見数の4分の1を占めており、意見が多様であることがうかがえる。



ア. 教育内容

●GIGA スクール

(新たな学習機会の創出)

不登校の子供への学習機会の提供や、他校や外国との交流が期待できる。

(学校間格差)

タブレットの活用やオンライン授業の実施について、教員の力量やPC運用ルールなどに学校間で差があるため、教員の技術力の向上や外部の専門人材の導入、運用ルールなどが学校間で平準化されることが望ましい。

(従来型のスキルの低下)

また、タブレットの活用により、教員、子供の双方の対面でのコミュニケーション能力や、子供の読み書き能力の低下が懸念される。

(ネットトラブル)

子供がインターネットにアクセスする際のセキュリティ対策やネットリテラシー、またSNS利用時のトラブルに対して懸念される。

●小中一貫教育、中一ギャップの解消

(不登校対策)

不登校対策が必要だとの意見が多く出ており、対策の一手法として小中一貫教育が期待できる。

(小中教員の連携への不安)

小学校と中学校の教員が密に連携を取り、中一ギャップ等の課題に対応することが、教員の忙しさ等の理由で本当に可能なのか懸念を感じる。

(困難を越える経験をする機会の喪失)

小学校と中学校の違いを乗り越えることが、実社会での直面する困難に立ち向かう力を養う機会の一つとして、ハードルを全く無くす必要は無い。

(進学による環境の変化が生まれにくい)

小学校でのいじめや不登校といった問題が、環境が変わらないことで中学校にも引き継がれてしまうのではないかと懸念がある。

(小中一貫教育のイメージがわからない)

小中一貫教育の内容や小中一貫校との違いについての説明を求める質問が多く出された。

イ. 児童生徒

●不登校対策

(学習機会の増加)

オンライン授業の実施により、不登校の子供が別室で授業を受けられる機会が生まれる。

(中一ギャップの軽減)

小中一貫教育により、つまずきの大きい中学校入学後のハードルが低くなる。

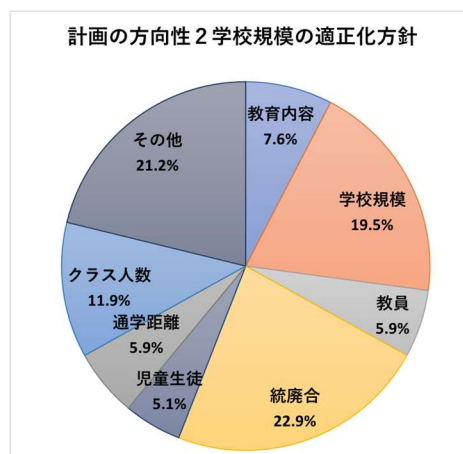
ウ. 教員

教員の負担軽減や、GIGA スクール、「新しい時代の学び」といった新しいスキルが求められる授業が増えたことを受け、教員のスキルアップが必要だ。

③計画の方向性2「学校規模の適正化方針」

計画の方向性2「学校規模の適正化方針」について出された意見を見ると、「統廃合」が最も多く、次いで「学校規模」「クラス人数」の順となっている。

「その他」についても意見数の2割を占めており、意見が多様であることがうかがえる。



ア. 統廃合

(通学方法への配慮、通学時の安全性の確保)

統廃合で通学距離が長くなった場合、通学時間や通学路の安全性に懸念があるため、自転車通学やスクールバスの運行などの配慮が欲しい。

(地域事情の反映)

学校は地域コミュニティの資産であり、1コミュニティに1学校あるべきなのではないか。学校の持つ歴史や地域住民の愛着なども考慮してほしい。

(廃校になった学校敷地・建物の利活用)

統廃合により廃校になった場合の敷地や建物の利活用方法が気になる。売却せずに地域で利用できる資源として活用してほしい。

(通学区域の変更による学級規模の平準化)

学校数を減らすのではなく、通学区域の変更による学級数の平準化を検討すべきではないか。中学校については、通学区域を無くす学校選択制により平準化を図る考え方もあるのではないかな。

イ. 学校規模

(クラス替えができる規模)

クラス替えができる規模が確保されるのは、子供のためにも良いことだ。

(適正規模の根拠)

市が示した小中学校の適正規模の学級数は、学校建設の補助金のための法律であり、地域の実情を踏まえての但し書きがある点に配慮していない。

(アンケート結果との乖離)

市が実施したアンケート結果は、市が示した適正規模の学級数の幅よりも狭いので、アンケート結果を基準としてはどうか。

(地区から学校が無くなる可能性)

1学年1学級であっても、地区内から学校が無くなるよりはましである。伝統的に1学年の学級数が少ないので、学級数が少ないことの何が問題なのかが分からない。

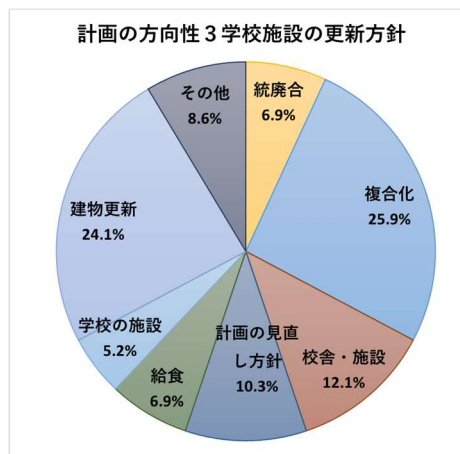
ウ. クラス人数

(少人数学級の推進)

市の掲げる35人学級よりも少人数の学級編成とすべきだ。少人数学級の方が教師の目が行き届きやすい。

④計画の方向性3「学校施設の更新方針」

計画の方向性3「学校施設の更新方針」について出された意見を見ると、「複合化」が最も多く、次いで「建物更新」「校舎・施設」の順となっている。



ア. 複合化

(多世代交流の場としての整備)

公民館や高齢者施設等と学校が複合化されることで、児童生徒と大人世代が交流できる場になるという点で期待できる。

(地域の拠点としての整備)

支所や図書館、公民館など、地域の多くの人々が利用する施設と複合化することで、人が集まる地域の拠点となることが期待できる。

(学校のセキュリティへの懸念)

不特定多数の人が学校敷地内にいることになるため、児童生徒の安全確保に配慮が必要だ。

イ. 建物更新

(学校施設の情報提供の必要性)

地区内の小学校の耐震性や修繕、建替えの時期等についての情報提供が必要だ。

(学校施設の耐震性)

現行の学校建物の耐震性は本当に大丈夫なのか懸念がある。

(建物更新の優先度)

人口の多い地区が優先され、市周辺部の学校は後回しにされるのではないか。

(施設や設備の老朽化対策)

雨漏りや配管の老朽化、床の軋み等の不具合がみられるため、安全になるよう修繕をしてほしい。

ウ. 校舎・施設

●学校施設の共用化・民間施設の利用（プール）

(室内プール利用による授業数の増加)

屋外プールは天候等の理由により、近年授業日数が確保されないのので、他校やスイミングスクール等の室内プールを利用することで、授業数が確保される。

(移動時間の増加による授業数の減少)

他校やスイミングスクールへの移動に時間がかかり、授業時間が減ってしまうのではないか。

●学校施設の共用化・民間施設の利用（給食）

(学校給食の継続)

学校給食を何らかの手段で継続してほしい。

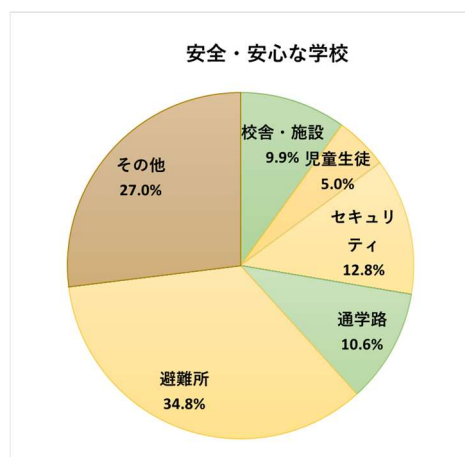
(給食の味やアレルギー対応)

給食は自校式の小学校の方が、センター方式の中学校よりもおいしいので、自校式を継続してほしい。また、自校式の方がアレルギー対応しやすい。

(2) 問いかけ②「新しい時代の学びに相応しい学校づくり」に必要なこと

①安全・安心な学校

「安全・安心な学校」について出された意見を見ると、「避難所」が最も多く、次いで「セキュリティ」、「通学路」の順となっている。



ア. 避難所

(水害対策)

水害時に避難できる拠点として整備すべきだ。

(備蓄)

以前の災害時には備蓄量が足りなかった。地域の人が避難できるだけの備蓄をしてほしい。

(バリアフリーやマイノリティへの配慮などの弱者対策)

体育館が2階以上にある学校は、避難時に高齢者等が体育館に上られるようにバリアフリー化を推進してほしい。

また、女性やマイノリティに配慮した避難所として整備してほしい。

イ. セキュリティ

(子供の安全性の確保)

校内で子供の安全が守られるように、来校者対策（パスの発行、顔認証システムの導入等）を行ってほしい。

また、いじめや子供の校内でのトラブル対応のため、子供にGPSを付ける、校内へのカメラの導入なども検討してほしい。

(複合化した場合の子供の安全性の確保)

学校開放や複合化で授業時間中に校内に不特定多数の人が訪れた場合の、子供の安全確保対策が必要だ。

ウ. 通学路

(通学路の安全性の確保)

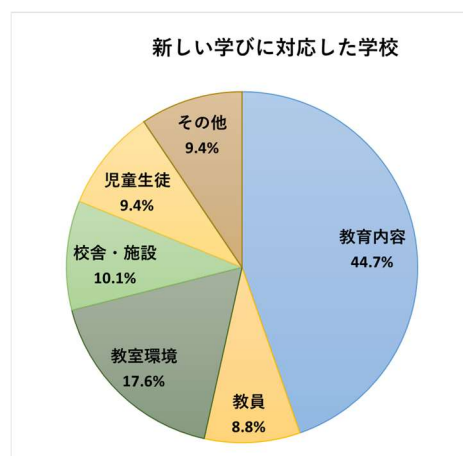
不審者や自動車等の往来などの危険から子供を守れるよう、地域の人による見守りや、防犯カメラ、スクールゾーンの設定等の対策が必要だ。

(通学距離の長さへの対策)

学校からの距離が長い場合に子供が長時間歩かなくてよくなるよう、スクールバスや自転車などの手段が必要だ。

②新しい学びに対応した学校

「新しい学びに対応した学校」について出された意見を見ると、「教育内容」が最も多く、次いで「教育環境」、「校舎・施設」の順となっている。



ア. 教育内容

(新しい教育)

プログラミングなどの時代に合った教育が授業に取り入れられると良い。また、PC以外にも子供の体験や経験につながる授業が大切ではないか。

(地域性を取り入れた教育)

農業など、地域の特性を活かした教育を取り入れても良いのではないか。

(外部の人材の登用)

新しい教育や地域性を取り入れた教育が校内の教員で対応できない場合は、外部の専門家や地域人材による授業を実施しても良いのではないか。

(日本語教育の充実)

英語教育や GIGA スクールよりも日本語教育、読み書き能力の維持の方が重要ではないか。

イ. 教育環境

(可動式の壁のある教室)

授業内容やクラスの人数等に合わせた教室の広さや環境とするために、壁が可動式で可変性のある教室としてはどうか。

開放感のある教室が良いので、教室の壁を可動式としてはどうか。

(学習机や備品の大きさ)

タブレットの導入で机の上に置くものが増え、PCと教科書、ノートを置くには既存の学習机では小さい。机を大きくする、複数人で共有するような大きな机を導入するなど、大きさを再検討してほしい。

荷物が多くなったことで既存のロッカーにも収納が困難になっている。大きさを検討してほしい。

(教室の大きさや机の配置の変更)

新しい学びの導入による環境の変化に対応し、教室の大きさや、机の配列方法などを変えても良いのではないか。

ウ. 校舎・施設

(自習スペース)

放課後などに子供が自習のために使える自習スペースがあると良い。

また、子供がグループで声を出して課題等に取り組めるスペースがあると良い。

(他クラスや他学年と交流できるスペースの設置)

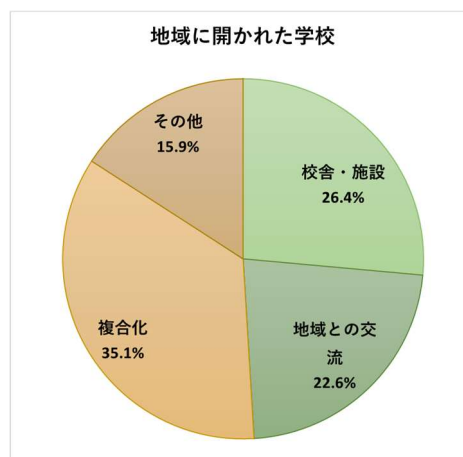
教室以外で他クラスや他学年の児童生徒とちょっとしたコミュニケーションを取れるスペースがあると良い(所属するクラス以外に入室禁止の学校があるため)

(不登校や問題を抱える子供の居場所)

不登校や問題を抱える子供でも学校に通える環境を形成するため、フリースクールや、不登校の子供用のスペースを、校舎内の他の生徒の目線が届かない場所に設置してほしい。

③地域に開かれた学校

「地域に開かれた学校」について出された意見を見ると、「複合化」が最も多く、次いで「校舎・施設」、「地域との交流」の順となっている。



ア. 複合化

(図書館との複合化)

図書館と複合化、又は学校図書館の利用拡大で図書の貸出の利便性が増すので良い。

(公民館、多目的スペースとの複合化)

市民が多目的に使える公民館や多目的スペースがあることで、地域コミュニティや地区内の多様な活動拠点となる。高齢者等の居場所にもつながる。

複合化により地域の多様な人が訪れることになり、地域の拠点としての位置づけが期待できる。

(学童との複合化)

学童が小学校から離れていると、放課後の移動に懸念があるので、学童と複合化できると安心できる。

(子供の見守り)

人が集まる施設との複合化で、施設内や敷地周辺の通学路を利用する人が増え、大人が存在することによる子供の見守りにつながるのではないか。

(高齢者施設との複合化)

高齢者の集まる施設と複合化することで、高齢者と児童生徒の多世代交流につながるのではないか。

(シェアオフィス等の民間施設との複合化)

起業の拠点となることで、地域活性化や、教育分野のマーケティング、教育への還元につながるのではないか。

(複合化した場合の子供の安全性確保)【再掲】

学校開放や複合化で授業時間中に校内に不特定多数の人が訪れた場合の、子供の安全確保対策が必要だ。

イ. 校舎・施設

(習い事の間としての活用)

習い事の会場として使えると良い。教室などを文化活動団体等が文化活動に使えると良い。

(子供の遊び場としての活用)

公園のようなスペースとして、子供が気軽に遊べる場であると良い。

(駐車場の整備)

地域の人が学校に集まるためには、広い駐車場が必要だ。

ウ. 地域との交流

(地域人材の活用)

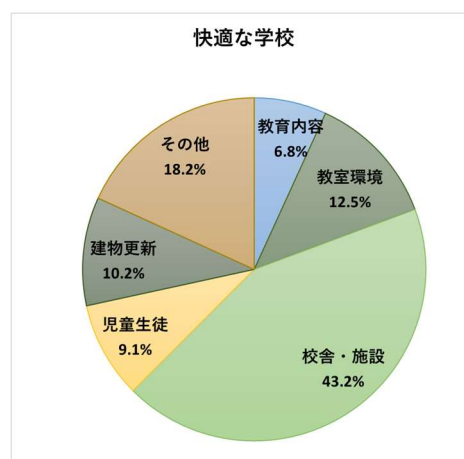
見守りや授業における教員の補助、地域に伝わる伝統技術のレクチャー、部活動の補助、新しい学びの実現などに、地域にいる多様な経験を持つ人材を活用しても良いのではないか。

(子供の見守り)

登下校時の見守りに、地域の高齢者などの人材を活用しても良いのではないか。

④快適な学校

「快適な学校」について出された意見を見ると、「校舎・施設」が最も多く、次いで「教室環境」、「建物更新」の順となっている。



ア. 校舎・施設

(自家発電)

太陽光エネルギーを蓄電することにより、平時でも災害時でもエネルギーを自給できると良いのではないかと。

(校舎の内装の木質化)

校舎が病院のようで暗いので、温かみのある木材等を内装に使用してはどうか。

(バリアフリー)

エレベーターの無い学校は、車椅子やけがをした子供の移動に親の付き添いが必要になり負担が大きいため、エレベーターを設置してほしい。

(花壇や樹木、看板等の修繕)

学校の花壇や樹木、敷地内にある看板のメンテナンスが行き届いていない。定期的な手入れが必要だ。

イ. 教室環境

(普通教室以外でのエアコンの設置)

音楽室や調理室などの特別教室や体育館においても、エアコンを完備してほしい。

ウ. 建物更新

(内装での木材使用)

木質化など、木をふんだんに使って温かみのある過ごして気持ちの良い空間にしてほしい。